

祐善寺だより

第23号

発行日

2009年10月13日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



「顔」

セトモノと
セトモノと
ぶつかりッこすると
すぐこわれちゃう
どっちか
やわらかければ
だいじょうぶ
やわらかいところを
もちましよう
そういうわたしは
いつもセトモノ

相田みつを

法句に憶う

住職 岡崎 賢

私たちが、あくせくしながら生きて
いるこの世界を、仏教では「娑婆」と
言います。娑婆は、また、思い通りに
ならない世界と言います。

確かに、よくよく考えてみますと、
私たちに、何一つ思い通りになるも
のではない、と言っても過言ではありま
せん。なぜならば、私たちの欲望は、
底なしだからです。この人間という動
物の欲望は、底なしである。

『欲望という名の電車』というアメ
リカ映画がありました。私たちが
「欲望」という名の電車に乗って、ど
こへ行くかとしているのでしょうか？
底なしの欲望にまみれた生活をして
いる人間のこころは、相田みつをさん
のこの法句にある「セトモノ」のここ
ろなのです。欲望でかちかちになった
「セトモノ」と「セトモノ」のこころ
で、この思い通りにならない娑婆を生
きて行くかとするために、ぶつかりあ
いになって、人間関係もこわれ、時と
して、殺し合いになってしまふのです。
その「セトモノ」のこころは、家庭の
中でもぶつかり合いになって、親が子
を殺し、子が親を殺すという悲惨な殺
人事件にまで発展してしまうのが現実
と言わねばなりません。いや、殺人事
件にまで発展しなくても、高齢者や子

どもに対する虐待事件は、ますます陰
湿になって増大していつています。家
庭の中でも、「セトモノ」のこころが、
ぶつかりつこしているのです。

私たち人間の苦悩の根は、思い通り
にならないことを、何とか自分の思い
通りにしようとするところに生じてい
るのだと思います。もちろん、老いる
ことも、病むことも、死ぬことも受け
入れられずに、かちかちの「セトモノ」
のこころをむき出しにして、この娑婆
で傲慢に生きているのです。

やわらかいこころを
もちましよう
そついうわたしは
いつもセトモノ

どちらかが、やわらかいこころを持
てば、もっと人間らしく生きて行ける
に違いないが、私のこころは、いつも
セトモノであると、相田みつをさんは
告白されています。

しかし、どうでしょうか？私たちは、
自分のこころを「セトモノ」と気付け
ているでしょうか？いつも、自分のこ
ころを問わずに、他人のことばかりを
批判してはいないでしょうか？

自分のこころが「セトモノ」だと気
付かされた時から、私たちは、相手を
思いやるこころが芽生えてくるのです。

親鸞聖人七五〇回御遠忌と 両堂等御修復特別事業について

真宗大谷派（東本願寺）では、平成二十三年に宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌をお迎えします。

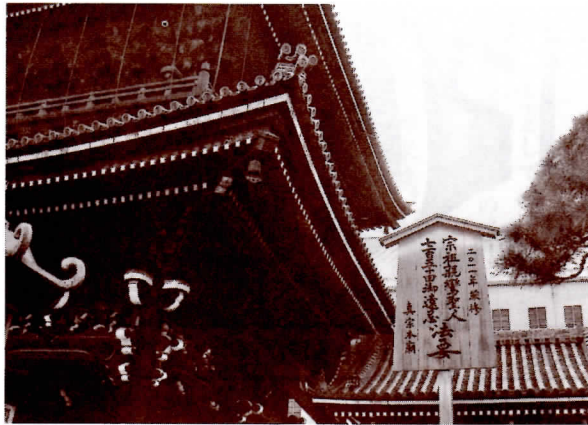
御遠忌とは、親鸞聖人の没後、五十年毎にお勤めされる法要のことです。近年からは、蓮如上人の法要も、御遠忌としてお勤めされています。私たちに浄土真宗を開いてくださった親鸞聖人は、一二六二（弘長二）年、末娘覚信尼や多くの門弟に見守られ、念仏のうちに静かに

九十年の生涯を閉じられました。そして、平成二十三年は七五〇回御遠忌にあたります。

この御遠忌特別記念事業として、明治時代の再建以来、百余年を経て傷みが出てきた両堂等（御影堂・阿弥陀堂・御影堂門）の御修復という歴史的事業に取り組んでおります。現在の両堂は、一八六四（元治一）年の蛤御門（はまぐりごもん）の変による焼失の後、一八九五（明治二十八）年に、当時の門信徒の方々の尊い総力を結集して再建されたものであります。しかし、再建から百余年の歳月を経て、屋根瓦の破損は、ほぼ全体に及び、木部においても将来に憂いを残す破損が確認されています。

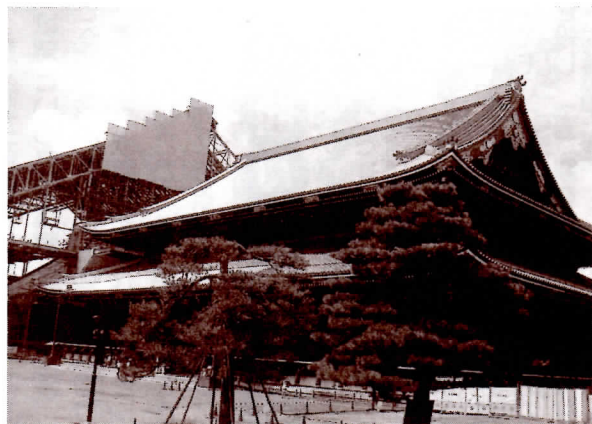
真宗大谷派本山である東本願寺の両堂等を後世につなげていくためにも、このたびの御修復事業は意義のある事業でございます。

なお、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要は、東本願寺において、二〇一一年（平成二十三年）三月十九

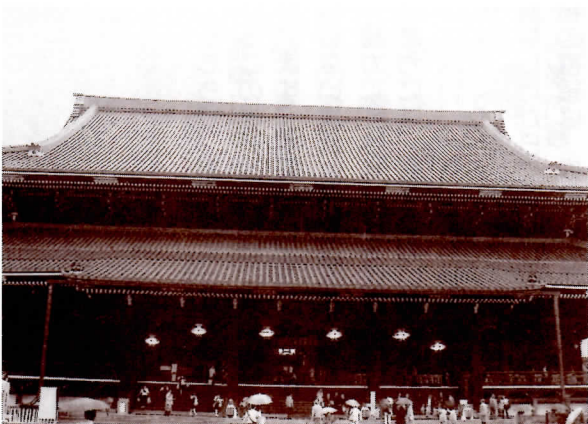


2011（平成23）年の御遠忌法要を知らせる高札

日から五月二十八日まで三期に分けて法要が営まれます。



覆われていた工事用の素屋根は阿弥陀堂に移動し御影堂の偉容が現れた



修復成った御影堂

宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌特別記念事業（両堂等御修復事業）御懇志のお願い

上記のように、平成二十三年にお迎えする宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌に向けて、両堂等御修復特別記念事業を推進するために、真宗大谷派（東本願寺）では全国の門信徒の皆様にも、東本願寺両堂等御修復瓦懇志を、お願いしております。

つきましては、この御遠忌・両堂等御修復という世紀の大事業に深いご理解をいただき、御遠忌円成と両堂御修復完遂に向けて、左記の通り格別なるご支援をお願いいたします。

記

東本願寺両堂等御修復事業御懇志

一〇 一万円

特典

一 一万円以上のご懇志をご進納された方には、東本願寺阿弥陀堂の瓦にご芳名が永代に記名されます。

また、東本願寺より記念品も用意されています。

締切 平成二十二年一月底日
お申込み

ご協力いただける場合、住職に直接、もしくは祐善寺までご連絡をお願いいたします。



花だより

写真はマユミの実である。その名については、昔この木から戦いや狩に使う弓を作ったことに由来すると思われたことがあるのである。と聞いていたのだが、その他に、実の形が繭に似ているからこの名が付いたという異説もあるらしい。いずれにしても花の少ない晩秋のうら寂しい時期にこの実の紅色を見かけると、心の中までほつと温かくなってくるのを感じる。

私は、強い自己主張をしているかのような燃えるがとき真つ赤な色よりも、いくらか控えめな薄紅色の方が落ち着きがあつて好きである。第一、ほのかな色合いに奥ゆかしさが感じられていい。人間だつてそうだ。自己主張に徹する人よりも、常に相手の逃げ道を設けながら話し相手になつてくれる人の方が奥ゆかしさと人間的な温かさが感じられていい。相手を追い詰めて自分が優位に立つたとして、それはその場だけのこ

とであつて何時でもそつというわけはないし、多くの人がその人の優位性を認めたくなくてもない。それはその場限りの自己満足にすぎず、虚しいことではある。

退職して気持ちに余裕が出来たとき、妙にこの木が欲しくなつて植木屋さんで買い求めて庭へ植えた。それ以来この木は毎年可愛い実を付けて目を楽しませてくれるのだが、数年前から少々事情が変わつてきた。

なんと、買い求めたマユミからニメートルと離れていない所に同じくらい大きなマユミが突然二本も現れたのである。しかもそれは、買い求めた木よりも色鮮やかな実を沢山付けるのである。

……と書いてみたが、これは正しい書き方ではない。第一、大きな木が突然現れるはずがないからである。おそらく野鳥がどこかでこの実を啄み、その種を私の家まで運んで来てくれたに違いない。運良くそれが発芽して何年か成長を続けていたのだが、植物に疎い私は赤い実がなるまでそれがマユミであると気づかなかつただけのことである。つまりこの二本のマユミは、野鳥からの有り難い贈り物なのだ。

カラーでないのが残念だが、写真は野鳥から贈り物の方のマユミであり、私が買い求めた方のマユミは私に似たのかこれよりも数段地味な色合いである。野鳥からの贈り物にあやかつて、私ももつちよつとだけ華やかな人間になるつかとの思いもないわけではないが、後期高齢者の仲間に入るのもそんなに遠い話ではないことを考えると、やはり今のままでするのが無難ではなからうか、そんな気がするこの頃である。(G)



野鳥からの贈り物のマユミ

りゅうぞう 吉崎布教

上野 保雄

運如上人は四十三歳で本願寺第八代を継がれ、衰微極限の本願寺を立て直すことに全力を尽くされましたが、天台宗叡山の支配下では何も出来ず、争いが絶えず遂に僧兵により破却焼打にされ京都を追い出されました。

止むなく運如は越前吉崎に居を構え、浄土真宗の新天地を開かれ精力的布教に全霊を注がれ滞在四年にして北陸一円を教化され、真宗王国の礎を築かれました。

我が願寺祐善寺は、泰澄大師の創建で足利義尚の家臣岡崎太郎が住持して復興し、天台宗でしたが運如の吉崎行化のとき浄土真宗に改宗されたとのこと。第十八代岡崎正純師(自笑)の妻は橋本左内の従兄弟のことです。(この項「泰澄の道」より引用)

運如の布教は寄合、談合、講を通じて対等に座つて親鸞聖人の法義の心を語り合いが大成功し、熱狂的信者の拡大に繋がつたと思われまふ。又名号下附も一日に数百幅書かれ当時の金額としてはかなり高額で一幅八百文だつたそう、お文章(お文)と共に冥伽金が莫大な収入で本願寺の財政は盤石となり、運如を評して浄土真宗中興の祖と呼ばれる所以であります。



今年も、お寺さんの草刈作業に参加する事ができました。雪囲いなどの難しい仕事や、力仕事はできませんが、女性の私でも、少しでもお役に立つことができたと思うと、嬉しい気持ちでいっぱいです。

健康に過ごしている日々感謝をしています。作業を始める前も、仕事中でも、途中の休憩時も、作業の終わった時も、皆さん、いい顔をされています。汗で、ピカピカ照り輝く顔は、どの顔も笑顔でいい顔です。このような、いい仲間と共に汗を流せた事を幸せに思います。

一緒に草取りをした人は、私より年上の女性なのに、仕事が早くて、上手で力持ちなのに感心してしまいました。草取りが嫌いでない私ですが、おそばにも及ばないと思いました。でも私なりに頑張りました。



鐘楼下の急傾斜面の草刈りに汗を流すご門徒さん

平地から少し上がった山の麓にある祐善寺の空気は、いつきても清々しく感じられます。真夏の空気もいいものでした。

数年前に、こんな事がありました。作業奉仕の数日前に祐善寺を訪れた時のことです。とても暑い暑い日でした。ご住職さまが草刈り機械を動かして、一心不乱に仕事をされていた姿が今も強烈に思い出されます。心が打たれました。事前に家族全員で精一杯されている姿に頭がさがります。温かい心で迎えてくださるお寺さんの元で、皆さん一緒に草取りをしてみませんか。

来年一緒にしましょう。

おくやみ

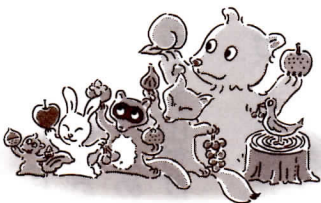
上野 登様（越前市国高）には、平成二十一年七月十四日、行年八十三歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



田中律子様（越前町田中）には、平成二十一年十月一日、行年六十三歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



平成21年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に互って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようお願いいたします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相続講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座
（〇七七〇―九一三〇七二一
・ 加入者〓祐善寺）

◇志納期限

毎年十一月末日

へ振り込む

第8回 御文講座

末代無智の章(1)

末代無智の

末法の世の中にあつて智慧のない

在家止住の男女たらんともがらは

日々の生活に明け暮れている男も女も

こころをひとつにして

こころを合わせて

阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて

阿弥陀様にお頼みして

さらに余のかたへこころをふらず

もちろん、他の仏様には脇目もふらずに

一心一向に仏たすけたまえと

もうさん衆生をば

ただ、ひたすらに阿弥陀様おたすけ下さい、と願う人々を

たとい罪業は深重なりとも

たとえ、罪は深くても重くとも

其の19

仏事一〇メモ

通夜までの心得(2)

に目覚めよと、常にはたらきつづけています。お内仏のご本尊は、そのはたらきを形にまで表された尊いお姿なのです。

肉親の死は、つらく悲しい心を引き起こします。そればかりでなく、亡き人がどこに行ってしまったのか、今どうしているのか、という思いも起こることでしょう。

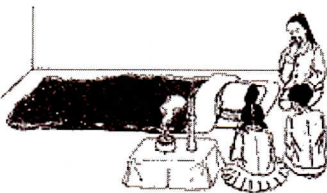
そういう問いを抱えながら、亡き人が身をもって教えてくださった死の事実をとおして、逆に私たちは、生きていくことの尊さを仏さまの教えに訪ねていく、その第一歩が枕勤めです。そして、これから始まる一連の儀式(通夜や葬儀など)を、仏さまの教えに出遇う大事な機縁にしていきたいと思えます。

このときの服装については、急なことですので、華美でない平服でかまいません。また、数珠(念珠)を忘れないようにしましょう。

枕勤めが終わりましたら、通夜・

葬儀の詳細など、住職と相談されるとよいでしょう。葬儀社との打ち合せも必要です。

(「サンガ」より)



家族の人が亡くなった場合、まず、ご親戚に連絡するとともに、お寺の住職に亡くなったことの報告をします。そのことは、すでにお話ししました。そのとき、住職には「枕勤め」(臨終勤行または枕経ともいう)のご依頼をします。また、今後の相談もされるとよいでしょう。今回は、その枕勤めについてお話しします。枕勤めは、臨終にあたって、故人と共に家族が合掌礼拝してきたお内仏(仏壇)のご本尊に、家族(親戚)みんなでお参りすることをいいます。そのお勤めを住職にお願いするわけです。すでにお話ししましたように、夫を亡くしたS子さん宅には、お内仏がありません。お寺への報告の際、住職に相談し、ご本尊をお迎えしましょう。

浄土真宗のご本尊は、阿弥陀如来です。阿弥陀如来は、私たちに真実

お知らせ

報恩講御案内

十一月二日(月)

日中 午前十時

御齋 午前十一時半

演奏 十二時半

—アルトサククス演奏

奏者・小川正二氏

速夜 午後一時半

満座 午後六時半

布教 出雲路善公師

つきましては、親鸞聖人の御遺徳を徳び、右の通り報恩講を厳修いたしますので、万障お繰り合わせの上、御家族、御近所、御法友お誘い合わせの上、何卒御参詣下さいますよう、御案内申し上げます。
なお、今年は、御齋後のひととに、小川正二氏のご協力によりまして、アルトサククスの演奏がございます。報恩講御参詣のお楽しみが、ひとつ増えました。
本当にありがたいことです。



親鸞聖人七五〇回御遠忌
真宗大谷派福井教区第四組
お待ち受け大会
親子参加者大募集!

とき 平成二十二年三月十二日(土)
午後一時半

会場 きらら館(福井市風巻町・プラント3近く)

対象 中学生以下の親子

参加費 無料(参加者には、記念品、景品等が用意されています)

右の通り、福井教区第四組御遠忌お待ち受け大会が開催されます。

この大会の開会式に、子どもたちを主体にした正信偈のおつとめを企画しています。もちろん事前に練習もしますし、寺の住職もバックアップしますので、ご心配は無用です。

この機会に、お子様の幼少年期に良い宗教体験をさせていただきたく、どうかご参加下さいますよう、よろしくお願いたします。

なお、ご家族の皆様も、お誘い合

わせの上、ご参詣下さいますよう、併せてご案内申し上げます。

ご参加申込み
平成二十二年一月十日までに、地区役員さんか、直接祐善寺へお申込み下さい。

ボランティア募集



日時 十一月十五日(日)
八時集合

持物 鎌(カッター)、軍手、合羽(悪天時) 等

昼食 用意します。

傷害保険 加入します。

作業内容

雪囲い作業は、高所での作業ばかりでなく、高所が苦手な方は、下で雪囲いシートのヒモ結びや資材運び等の作業もありますので、ご都合のつく方は、ご協力をお願いします。

お申し込み
お手数ながら、前日までに寺までご連絡下さい。

皆様、どうかよろしくお願いたします。

編集後記

★私達みんなの祐善寺を護持していくためには、多くの人手が必要である。七月の草刈り、十月の仏具磨き、十一月の報恩講作業、同じく十一月の雪囲い作りの作業等である。

★その他に屋内や境内の掃除や草取り、諸々のお手伝いなど、心ある門徒さんの有り難い奉仕の心に支えられている部分も少なくない。

★これらの作業の中には、時間がかかるだけでなく危険が伴う仕事や力仕事もある。そのため当番地区を決めて、なるべく多くの門徒の協力を得られるように工夫しているが、門徒の高齢化のために作業が思うように進まない現状がある。

★こうした中にあり、『若い人達のカも借りて、みんなで祐善寺を守ってほしい』ということで、祐善寺青壮年部の創設が検討されている。高齢者には体力がなく、若い人には時間がない。これをなんとか助け合い、補い合ってみんなの力で、祐善寺を守っていききたいものである。

いつの日か、私達門徒のみんなが同じ祐善寺の墓所で眠ることになるのだから……。(G)